

まちづくり交付金 事後評価シート
東雁来地区

平成22年3月

北海道札幌市

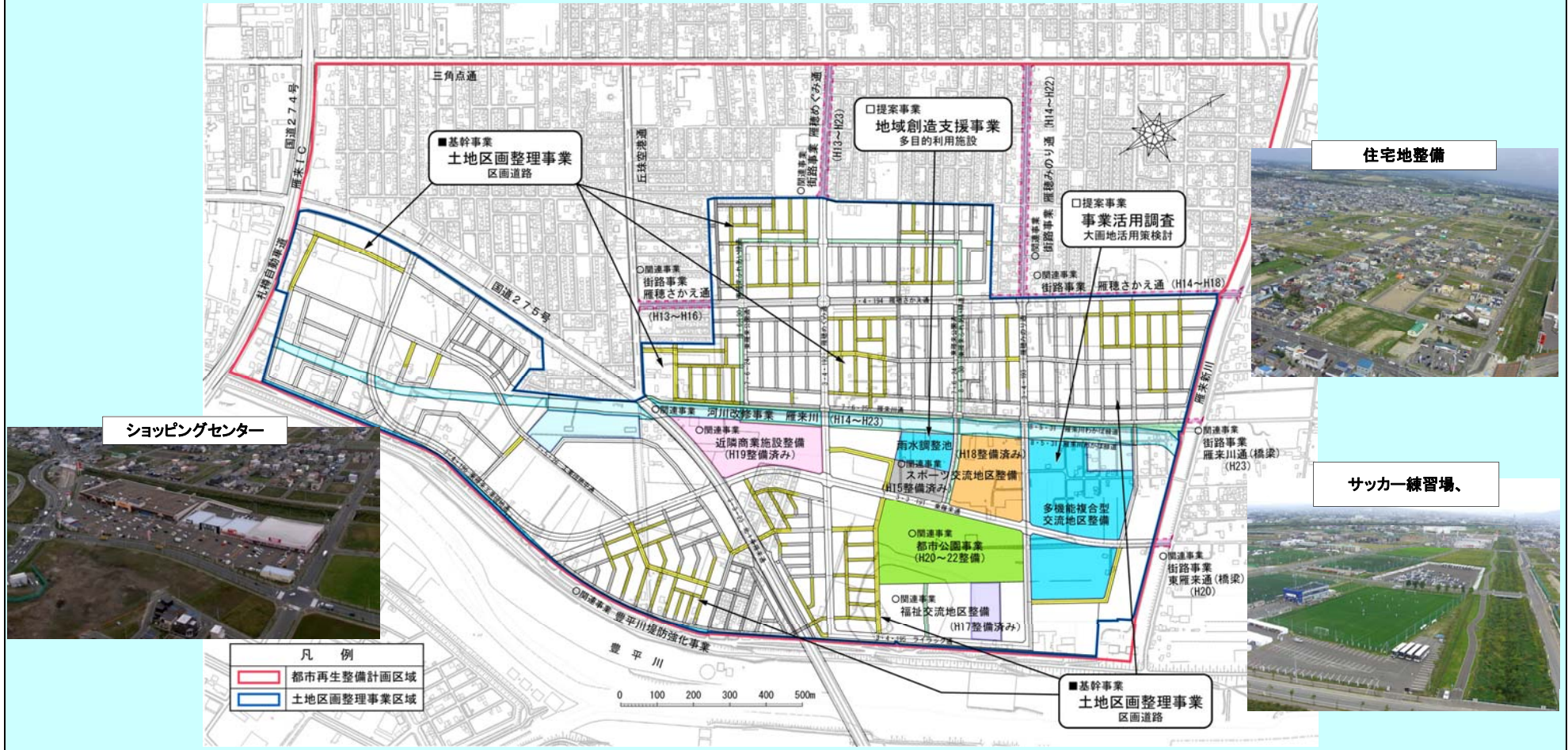
様式2-1 評価結果のまとめ

| 都道府県名 | 北海道 | | 市町村名 | 札幌市 | | 地区名 | 東雁来地区 | | | 面積 | 365.5ha | | |
|--------------------------------------|---|----------------------------------|-----------------------------|---|--------------------------|--|----------|--|--|----------|--|---|---------|
| 交付期間 | 平成17年度～平成21年度 | | 事後評価実施時期 | 平成21年度 | | 交付対象事業費 | 4,167百万円 | 国費率 | 0.400 | | | | |
| 1)事業の実施状況 | 当初計画に位置づけ、実施した事業 | | 事業名 | | | | | | | | | | |
| | | | 基幹事業 | 東雁来第2土地区画整理事業(都市再生) | | | | | | | | | |
| | 当初計画から削除した事業 | | 提案事業 | 大画地活用策検討、多目的利用調整池整備 | | | | | | | | | |
| | | | 事業名 | | | 削除/追加の理由 | | | 削除/追加による目標、指標、数値目標への影響 | | | | |
| | 新たに追加した事業 | 基幹事業 | 地域生活基盤施設(緑地)、高質空間形成施設(緑化施設) | | | 当該緑地は、隣接する豊平川堤防緑地と一体的に活用・整備する計画であったが、堤防緑地部分の盛土工事が移転補償の難航で遅れていたところである。ようやく造成の形が現場で見えてきて、整備イメージがつかめるようになったところ、新たに地域住民から整備内容・活用方法等について要望が出てきており、その意見調整・関係機関との協議が新たに生じ、緑地整備については都市再生整備計画終了後となるため、交付対象事業から削除する。 | | | 生活の質の向上や地域の魅力を高める事を目的とした本事業の削除により、定着人口や交流人数の増加といった指標への影響は幾分あるものの、各指標の目標値達成が確実に見込まれる状況にあり、都市再生整備計画完了後における継続的な土地区画整理事業での事業実施により、いっそうの効果発現を実現させる。 | | | | |
| | | 提案事業 | なし | | | | | | | | | | |
| 交付期間の変更 | | 当初 | 平成17年度～21年度 | | 交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響 | | | | | | | | |
| | | 変更 | | | | | | | | | | | |
| 2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | 達成度 | 達成見込み | (総合所見) | 予定時期 | | |
| | 指標1 | 定着人口 | % | -1.1 | 16 | 0.0 | 21 | 1.5 | 1.6 | ○ | あり なし | 基幹事業(土地区画整理事業)等により、新たな居住空間が創出されて定住人口が増加した。 | 平成22年4月 |
| | 指標2 | 商業・業務床面積 | m ² | 10,800 | 16 | 17,100 | 21 | 26,500 | 39,800 | ○ | あり なし | 基幹事業(土地区画整理事業)等により造成された業務地への企業進出により、床面積が増加した。 | 平成22年4月 |
| 指標3 | 交流人数 | 千人/年 | 7 | 16 | 575 | 21 | 733 | 867 | ○ | あり なし | 基幹事業(土地区画整理事業)、提案事業(雨水調整池整備)により創出された商業地、公共・公益施設用地への施設建設により、来訪者が増加した。 | | |
| 3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況 | 指標 | | 単位 | 従前値 | 目標値 | | 数値 | | 目標 | 1年以内の | 効果発現要因 | フォローアップ | |
| | | | | 基準年度 | 目標年度 | モニタリング | 評価値 | 達成度※1 | 達成見込み | (総合所見) | 予定時期 | | |
| | その他の数値指標1 | | | | | | | | | | | | |
| | その他の数値指標2 | | | | | | | | | | | | |
| その他の数値指標3 | | | | | | | | | | | | | |
| 4)定性的な効果発現状況 | 本事業を通じ地域住民から緑地の整備内容や活用方法等についての要望が寄せられる等、まちづくりに対する関心が高まった。また、本事業、並びに関連事業による道路網の整備や拠点的な商業施設の建設により、地区及び周辺の既存市街地における生活便性の向上が図られた。 | | | | | | | | | | | | |
| 5)実施過程の評価 | 実施内容 | | | 実施状況 | | | | 今後の対応方針等 | | | | | |
| | モニタリング | 市統計書、建築許可申請書、対象施設への聞き取りによるモニタリング | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● 人口定着に係る指標については、モニタリングと同様に毎年度の本市統計書により確認する。 | | | | | |
| | 住民参加プロセス | 緑地の整備内容や活用方法等についての意見交換 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● 今後も地域住民との意見調整を継続的に行い、より効果的な整備内容の検討を行う。 | | | | | |
| | 持続的なまちづくり体制の構築 | 地元説明会などによる意見交換 | | 都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった | | | | ● ● 地元町内会等を対象として毎年行っている地元説明会において、意見交換を行っている。 | | | | | |

様式2-2 地区の概要

東雁来地区(北海道札幌市) まちづくり交付金の成果概要

| まちづくりの目標 | 目標を定量化する指標 | | 従前値 | | 目標値 | | 評価値 | |
|--|------------|--------------------|--------|-----|--------|-----|--------|-----|
| | 指標 | 単位 | 従前値 | 評価 | 目標値 | 評価 | 従前値 | 評価 |
| ① 市民生活の質の向上による人口定着 ② 良好な産業立地基盤の供給による地域経済の活性化 ③ 地域の魅力の向上と交流の活性化 | 定着人口 | 単位: % | -1.1 | H16 | 0.0 | H21 | 1.6 | H21 |
| | 商業・業務床面積 | 単位: m ² | 10,800 | H16 | 17,100 | H21 | 39,800 | H21 |
| | 交流人数 | 単位: 千人/年 | 7 | H16 | 575 | H21 | 867 | H21 |
| | | 単位: | | H | | H | | H |



| | |
|---------------------|--|
| まちの課題の変化 | 生活の質の向上による人口の定着化、産業基盤の確保による地域経済の活性化、核となる施設整備による魅力の向上といった、本地区のまちづくりの課題に対し、まちづくり交付金による各事業の実施により、良好な宅地並びに交通利便性の高い商業・業務地が供給され、住宅や福祉施設、ショッピングセンターの建設が順調に進んだ。なお、今後の土地区画整理事業等による都市基盤施設の継続的な整備にもなう、より一層の定着人口や交流人数の増加に対応するため、公共交通の機能向上のための検討及び多機能交流地区の活用計画についての検証が必要とされる。 |
| 今後のまちづくりの方策(改善策を含む) | 事業の効果を持続させるため、引き続き東雁来第2土地区画整理事業による、良好な宅地の供給、幹線道路網や河川及び公園・緑地の整備を促進するとともに、継続的なPR活動の実施等を行う。また、定着人口や交流人数の増加に対応した、バス路線等の公共交通機関の機能向上についての検討や多機能交流地区の活用計画についての検証を行う。 |